

# 和太鼓演奏の正しさ

Study on What is Considered Correct in Japanese Drumming Performance

人文科学系 / 文化研究 / 論文

地域キュレーションコース

家田 彩未

Ayami Ieda

## ●研究目的

本論文では、和太鼓演奏において演奏者もしくは団体が重要視、注力する要素に着目し、和太鼓演奏の正しさとは何かについて迫っていく。和太鼓演奏とは、小口大八氏が創始した、和太鼓が主眼でかつ複数異種の太鼓を使用し、大編成で演奏を行うという特徴をもつ演奏形式のことである。また、和太鼓演奏において、揃うはずのリズムが揃わなかったり、テンポの共有がうまくいかず各々で譜面を進行したりすると、不一致が生じ音楽として成り立たず、最悪の場合雑音と化してしまう。そのため、和太鼓演奏は、上手いか下手かではなく、正しいか間違っているかで判断されることがしばしば見受けられるため、和太鼓演奏の上手さではなく正しさと表記する。

## ●結果と考察

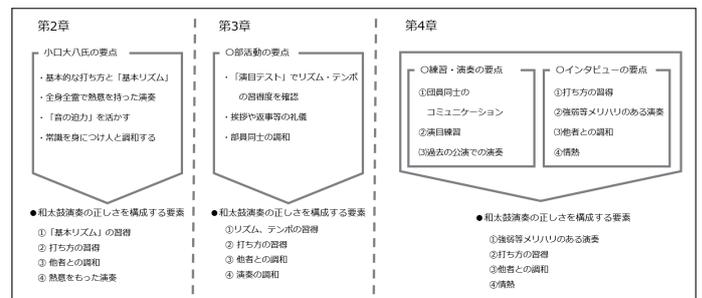
まずはじめに、和太鼓演奏の祖である小口大八氏が提唱した和太鼓論「鼓道十訓」と「鼓道入門」を中心に要点の調査を行い、小口氏にとって正しい和太鼓演奏を構成する要素とは何か、考察を行った。「鼓道十訓」では、小口氏は基本的な和太鼓の打ち方と「基本リズム」を重視し、演奏者が全身全霊で熱意をもった演奏を行うことで生み出される和太鼓の「音の迫力」も重視している。「鼓道入門」では、「人づくり」が重要とされ、「日常一般の常識を身につけ、行える人間になる」ことで、演奏の調和にもつながると述べられている。以上のことから、小口氏にとって和太鼓演奏の正しさを構成する要素は①「基本リズム」の習得、②打ち方の習得、③他者との調和、④熱意をもった演奏の4つである。

次に、愛知県にある中高一貫校の和太鼓部を例に要点の調査を行い、和太鼓部にとって正しい和太鼓演奏を構成する要素とは何であるか、考察を行った。演奏会出演後のアンケートでは、打ち方に加え、礼儀や思いやりの気持ちを持つことが必要とされる傾向にあった。「演目テスト」では、演目ごとに演奏の指針があり、それに準じて習得度が図られていた。また資料整理を行う中で、和太鼓部において打ち方などを習得し、挨拶や返事などの礼儀が備ることで、他者との調和や和太鼓演奏の調和に繋がると推測した。以上から、①リズム・テンポの習得、②打ち方の習得、③他者との調和、④揃った演奏の4項目が和太鼓部で行われる和太鼓演奏の正しさを構成する要素である。

続いて、愛知県瀬戸市を拠点に活動を行うアマチュアの和太鼓団体《和太鼓 天くう》の調査を通じて、《和太鼓 天くう》にとって正しい和太鼓演奏を構成する要素とは何か、考察を行った。結果《和太鼓 天くう》は、リズムの強弱などに注意し、メリハリのある演奏

を行うという特徴があることがわかった。また、普段から他者とコミュニケーションを頻繁にとっていることも特徴の1つである。加えて、打ち方が綺麗であることや揃っていることよりも、楽しそうにみえることや情熱を感じる演奏を好む傾向にあることがわかった。以上から、①強弱等メリハリのある演奏、②打ち方の習得、③他者との調和、④情熱が、《和太鼓 天くう》にとって、和太鼓演奏の正しさを構成する要素である。

以上の結果を踏まえ、要点を比較し、考察を行った。①リズム・テンポの習得、②打ち方の習得、③他者との調和はいずれの演奏者、演奏団体にも共通しており、4つ目のみ打ち方やリズムなどの揃いを重視するか、気持ちを重視するかで差異が生じた。どちらがより和太鼓演奏の正しさに繋がるか考察した結果、どちらも誤りではなく過程の違いではあるが、観客、演奏者ともに充実感が持てるのは熱意をきっかけとした演奏であると結論づけた。以上の考察から、和太鼓演奏の正しさは、①リズム・テンポの習得、②打ち方の習得、③他者との調和、④熱意を持った演奏、の4つの要素を含んでおり、以上の項目から構成されている。



## ●今後の展望

小口大八氏、A中学・高等学校の和太鼓部、《和太鼓 天くう》の調査を経て、和太鼓演奏の正しさについて考察し、結論づけたが、知見を広げることで和太鼓の正しさに関する考察も発展すると考える。今後も《和太鼓 天くう》に関与していくとともに、演奏会の鑑賞や見学を行い、他団体にも関与することで、知見を広げていく。

## [主要参考文献]

小口大八『天鼓—小口大八の日本太鼓論—』長野：銀河書房、1984年。